



## COVID-19感染症と他の感染症流行、インフルエンザワクチン接種

ピーク時には1日に国内で2万人以上の患者発生数がみられていた。新型コロナウイルス感染症第5波の流行も漸く落ち着いてきて(図1)、2021年10月には首都圏や関西地方を含めて広範囲に発令されていた「緊急事態宣言」も解除されていることと思われます。

大阪においては、第5波の患者発生数は第4波を大きく上回り、1日あたりの患者発生数は最高で3000人を超え、自宅療養者数が2万2000人を上回ることもありましたが、重症病床利用率は第4波の時の半分以下にとどまり、医療現場の逼迫感は前工程ではなかったと思われました。これは、重症例の多く出る高齢者を中心に新型コロナウイルスワクチンの接種が進み、患者発生数全体に占める重症者の割合が大幅に減少したことが大きな原因であると思われま

す。では、10月以降、新型コロナウイルス感染症の流行はどうなっていくのでしょうか？予測することは困難ですが、**緊急事態宣言が解除されることにより、やはり10~30歳代の若年齢者を中心とした患者発生数は今よりも増加してくると思われま**す。一方で、既に全人口の約7割は少なくとも1回は接種を行っているワクチン接種者数は、日本国内においてこれからはその若年齢者層を中心に更に増加していくでしょうし、これによって患者発生数はある程度抑制され、特に重症患者の割合は更に減少していくと思われま

### 新型コロナウイルス感染症の国内発生動向

報告日別新規陽性者数 令和3年9月28日24時時点



図1. 新型コロナウイルス感染症の国内発生動向(2021年9月28日まで)

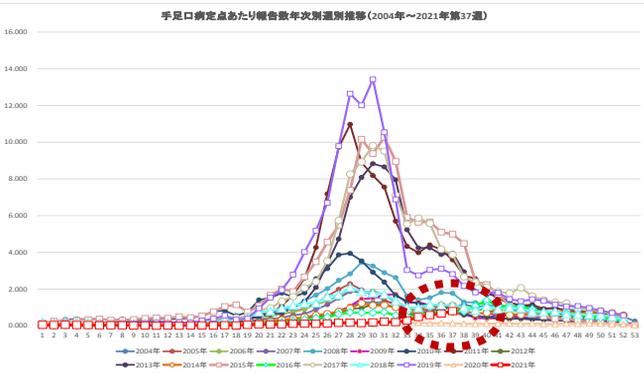


図2. 手足口病の報告数年次別週別推移(2004年~2021年第37週)

次に、10月に注意すべき感染症についてです。新型コロナウイルス感染症の流行の影響のためか、2020年1月以降、他の多くの感染症の流行はかなり抑制されてきました。一方、2021年には過去の流行とは異なり第28週(7月)をピークとしたRSウイルス感染症の大きな国内流行があり、9月にはやはり季節外れと言わざるを得ない手足口病(図2)やヘルパンギーナの国内流行が発生してきており、10月も引き続き注意する必要があります。

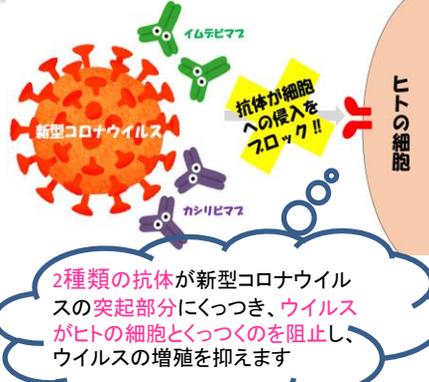


最後に、インフルエンザについて、過去2シーズンに渡って本格的な流行はみられていません。特に昨シーズンはほぼ患者発生は国内では見られなかったと言っても過言ではない状態でした。しかし、**流行がなかったということは、それだけインフルエンザウイルスに対して免疫力が低下しているいわゆる感受性者の割合が国内でも高まってきているということに繋がります。**RSウイルス感染症のように、インフルエンザも一旦流行しだすと大きな流行となる可能性は十分にあると思われま

す。以上より当院では昨年と同様、10月の最終週(10月25~30日)に職員を対象としたインフルエンザワクチンの一斉接種を行う予定です。ご協力のほどよろしくお祈いします。(感染管理室 安井良則)

## 抗体カクテル外来がスタートします!!

抗体カクテル療法は、新型コロナウイルス感染症の軽症から中等症の患者を対象とした治療法です。抗体カクテル療法で使用される「ロナプリーブ(カシリビマブ/イムデビマブ)」は、高齢者や基礎疾患がある人など、重症化のリスクが高い人への早期治療で重症化を防ぐことが期待されています。海外の試験では入院や死亡のリスクを70%減らす効果が認められており、当院でも入院患者へ投与されてきました。厚生労働省から外来や宿泊療養施設、往診でも使用を認めると通知され、抗体カクテル外来をスタートすることとなりました。ご理解のほど、よろしくお祈いいたします。(薬剤部 三木芳晃)



## お知らせ

2021年10月14日(木)  
感染対策研修会を西棟13階体育館にて開催します!

